

季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四六四号）

清明

四月五日

御木曳初式

桜咲く頃、二十四節気は「清明」を迎えます。「清浄明潔」の略語とされ、すべてのものが清らかで生き生きしているという意味があります。

四月、神宮式年遷宮にちなむ行事「御木曳初式」が内宮十二日、外宮十三日に行われます。この行事では、ご神体を納める御正殿の垂木材（屋根を支える材）など造営の代表的なご用材を特定の奉曳団によって曳き込まれるため、「役木曳」ともいわれます。神宮とゆかりの深い市内の奉曳団が奉仕します。

十二日は、五十鈴川の川曳で、正宮三本のほか、別宮のご用材も各一本曳き込まれます。正宮のご用材は長さが約六メートル、直径が四十センチほど。別宮用は少し短く、長さが約五メートルといえます。ご用材は木ぞりに積まれ、五十鈴川をさかのぼり、宇治橋の下を通過して、御手洗場から曳き上げられます。そこから、参道を進み、第二鳥居内でお祓いを受け、五丈殿前で木ぞりから下ろされ、安置されます。おかげ横丁のある宇治奉曳団は正宮のご用材を担当します。

神域内の別宮、荒祭宮と風日祈宮のご用材も五十鈴川から曳き上げられ、近くまで木ぞりで曳いた後、今度は人々に担がれ、それぞれの古殿地に運ばれます。この「肩持ち」は御木曳初式ならではの所作で、見どころとなります。

神域外の別宮、月読宮と倭姫宮のご用材は、体育館あたりから浦田橋、御幸道路を曳く特有のもの。この日、内宮前は一日中、御木曳初式が行われ、あちらこちらで見物したいものです。エンヤの掛け声や木遣りの声が響き、お祭り一色となりそうです。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 端午の節句

端午の節句は、奈良時代以前から続く古い行事です。

菖蒲の節句ともいわれ、強い香りで邪気を祓う菖蒲や蓬を束ねて、5月4日の夜に軒先に挿したり、菖蒲湯に入ったりして、無病息災を願いました。

江戸時代以降は、菖蒲を「尚武」という言葉にかけて読み、勇ましい鎧や兜を飾り、鯉のぼりを立てて、子どもの健やかな成長や立身出世を願う行事となりました。

おかげ横丁では、この古きよき日本の伝統文化に込められた願いを大切に、端午の節句をお祝いします。

どうぞ、ご家族揃ってお楽しみ下さい。

日 時／4月26日(土)～5月6日(水) 10:00～17:00

場 所／おかげ横丁一帯 ※時間帯は催しにより異なる

● 鎧武者に大変身

本格的な兜や鎧に身を包み、武士になりきって記念撮影をしましょう。

場 所／伊勢路名産味の館 2階「大黒ホール」(最終受付17:00)

料 金／1,500円(税込)～

■しょうぶセット：2000円(税込)

(内容：貸衣装+着付け+チェキ1枚+初節句衣装+メッセージカード付台紙)

■着付けのみ：1500円(税込) (内容：貸衣装+着付け)

※写真や台紙は付属しません。お客様のカメラ等で撮影をお願いいたします。

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 「諸説ありますが・・・」～伊勢の不思議を解き明かす～

伊勢神宮や伊勢の町には、えっなんで?と思うようなことがたくさんあります。例えば、式年遷宮は20年に一度行われますが、なぜ20年なのかたくさん説があります。それらを紹介しながら謎に迫っていただく「謎解き講座」です。観光客によく質問される「注連縄が一年中飾ってあるのはなぜか?」「カップルで伊勢神宮を参拝するのはよくないの?」など、少し不思議な風習や言い伝えを、諸説をまじえてお話いただきます。

日 時／4月16日(木) 13:30～15:00

講 師／山中一孝(豆腐庵山中代表取締役)

参加費／一般1,500円 会員1,000円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み/電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

はな
花

いかだ
筏

川面に舞った桜が、岸辺に着かず離れず筏のように浮かび、流れにまかせて漂い続ける、古人も詠んだその風景。粒餠を包んだ求肥に桜の姿をとどめて、花のなごりに思いをこめました。

こちょう
胡蝶の舞

神宮では毎年四月、神恩に感謝を捧げ、国民の平安を祈る、春の神楽祭が行われます。古式ゆかしく演じられる「胡蝶」の舞の装束を白あんを包んだ羊羹で表現しました。

じんぐう
神宮つつじ

神宮にもつつじが咲く頃となりました。山芋あんのきんとんで粒餠を包み、木々の緑と赤いつつじが見せる鮮やかな色彩を表現しました。